

平成21年度第4回中原区区民会議

日時 平成22年3月19日（金）15：00～
場所 中原区役所5階 502・503会議室

午後3時 開 会

1 開会

司会 皆さん、こんにちは。大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

きょう、3月19日は、川崎市内114校の小学校の卒業式ということで、先ほども親子連れ、和服を着たお母さんと一緒に歩いている子どもたちを目にすることがありましたけれども、きょうはほとんどの小学校が卒業式ということでございます。

それでは、平成21年度第4回中原区区民会議を開催いたしたいと思えます。

また、本日、潮田参与、立野参与、東参与は、所用のため、ご欠席になっています。また、滝田参与、田島参与、徳安参与は、県議会が今開催中のため、ご欠席ということです。なお、市古参与、清水参与、志村参与、吉岡参与につきましては、到着がおくれているようです。

それでは、早速始めたいと思えます。

まず初めに、中原区長の畠山よりごあいさつ申し上げます。

区長 改めまして、皆さん、こんにちは。きょうは平成21年度の第4回目の中原区区民会議でございますが、委員の皆様、それから、参与の皆様には、お仕事やそれぞれの地域での活動など、大変お忙しい中をきょうの区民会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。また、ご苦労さまでございます。

きょうの区民会議は、皆様方の任期、平成20年の7月から始まりまして、22年の6月で終わるこの第2期の任期でございますけれども、その中では第8回目ということになりまして、一応今のところのスケジュールでは、こういうふうに皆様方にお集まりいただいて、机を囲んでの区民会議という場では最後の回ということになりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

きょうは、この第2期の中で、放置自転車の問題、コミュニティづくりの問題、そして、中原区の魅力の掘り起こしといえますか、そういう3つのテーマについて取り組んでいただきました内容について、皆様方でご確認いただいて、22年の7月からの新しい任期、3期にその成果を引き継いでいただくための確認の場という形になると思えますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思えます。

けさの新聞ですと、東京の日比谷公園で桜が咲いたとかという話が出ておりますけれども、私たちの中原区でも、4月3日、土曜日には、住吉地区の平和公園での桜まつり、それから、翌日の4月4日には、丸子・小杉の桜まつりということで、文字どおり春本番ということでございますが、先週の土曜日は待望のといえますか、横須賀線の武蔵小杉の新駅が開業したということでございまして、その新駅開業のセレモニーもあり、この中にもご出席いただいた方は多いと思えますが、地域の方々で実行委員会をつくっていただい

て、イベントも皆さんの手で開催していただいたところでございます。このイベントは、新しく中原区で生活を始められた方が大変多いということで、この機会に地域の人の輪をより太くしよう、より広げようということを趣旨にして開催されたわけですが、大変多くの方々に会場にご来場いただきまして、にぎやかにできたというふうに受けとめております。ありがとうございました。

その新駅でございますけれども、開業以来、きょうでちょうど1週間たちまして、いろいろ新聞などでも報道されておりまして、便利になったということが多いと思いますが、中には連絡通路の問題が意見としても出ていまして、ちょっと遠いという話も出ています。ご承知の方も多いと思いますが、現在の連絡通路は仮設でございまして、特に新幹線の下をくぐる部分と、その前後の部分は仮設ということで、新幹線の下を通るので、大変微妙な工事ということがありまして、通常の工事よりは少し時間がかかっております。これが完成しますと、動く歩道がついたり、あるいはエレベーターが増設されたりということで、今よりはその距離感も短く感じていただけるのではないかと思いますので、しばらくの間、ご辛抱いただければと思っております。

それからまた、新駅の開業で、駅前広場ができて、それに伴ってバス路線も新しくできたということもありますし、駐輪場ができたということもありまして、区役所では、その駐輪場にできたという機会をとらえて、新駅周辺の地域から、最初が肝心だということで、放置自転車を防止する特別な取り組みを今しているところでございますので、これについてもご理解をいただければと思っております。

小杉駅周辺の地区は、新駅の開業というのは、再開発の中の大きな柱でございまして、そしてまた、中原区だけというよりは、むしろ川崎市全体にとっての大変大きな都市機能が付加されたということでございますが、引き続きまして小杉の再開発の事業は進められるということでございまして、来週の25日には、東横線沿いの西側の地区の西街区という言い方をしておりますけれども、ここには商業施設と集合住宅、そして、その商業施設の一角には新しい中原図書館が入るスペースも確保されておりまして、また、その隣に公園もできるという、そういう再開発事業の起工式も行われるということでございますので、これからも小杉の周辺の町並みの変化というのは激しいものがあると思っておりますが、中原区全体でも町並みがどんどん変わっております。そういう意味では、またそれに伴っての新しい地域の課題というのも出てくると思っておりますので、またその際には皆さん方のお力をいただきながら、皆さんの力と行政の力を合わせて、地域の課題の解決のために努力してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

少し長くなりましたけれども、きょうはそういう意味では、第2期の最終回の区民会議ということですので、よろしくお願ひいたします。どうもありがとうございます。

司会 この会議は、会議公開条例に基づきまして公開で行われます。また、会議録を作成し公開することとなりますので、ご了解いただきたいと思います。また、今もいらっしや

っていますけれども、傍聴があった場合にも、これを許可することとなります。傍聴の方々には、傍聴者の遵守事項を遵守していただきますようよろしくお願いいたします。

それではまず、事務局から資料の確認をさせていただきますので、お願いします。

事務局 それでは、事務局から資料の確認をさせていただきます。

まず最初に、次第、それから、別添1といたしまして席次表、別添2としまして委員及び参与の名簿、あわせて添付させていただいております。

次に、本日の資料でございますけれども、資料1といたしまして「第2期中原区区民会議報告書」、緑の表紙のものでございます。

資料2といたしまして「中原区区民会議『市民報告会』実施概要（案）」でございます。

資料3といたしまして、3月14日に開催されました「区民会議交流会資料」一式でございます。

参考資料といたしまして、参考資料1として「平成21年度第4回中原区区民会議運営部会会議録」。

参考資料2として「中原区魅力スポットガイドブック・なかはらが好き」冊子になっております。

参考資料3として「第1期中原区区民会議の検討テーマとその取り組み」でございます。

参考資料4といたしまして「第2期中原区区民会議を振り返って」でございます。

参考資料5として「あなたのまちの地区社協」というものをつけさせていただいております。

参考資料6といたしまして「『地域で取り組む放置自転車問題』の活動報告」を添付しております。

参考資料7といたしまして「第2期中原区区民会議検討テーマについての取り組み報告」でございます。

あと、資料外という形で、印刷したもので、「中原まちづくり通信」、カラーの印刷のものです。第44号、こちらを添付させていただいております。

皆様に配付させていただいた資料は以上でございます。確認をよろしくお願いいたします。

司会 資料のほうはよろしいでしょうか。

それでは、ここからの進行は委員長にお任せしたいと存じます。藤枝委員長、よろしくお願いいたします。

藤枝委員長 皆様、こんにちは。きょうは、先ほど言われましたように、第2期の区民会議の最終回となります。この2年間、両副委員長を初め、皆様のご協力で、何とか会議をスムーズに進行できたのではないかと考えております。

2 会議録確認委員の選任

藤枝委員長 では、次第に従いまして議事を進めたいと思います。

それでは、議事に入ります。まず、会議録確認委員の選任です。前回は松原委員と松本委員が担当いたしましたので、名簿の順番で、恐縮ですが、今回は村山委員と矢野委員にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。じゃ、よろしく願いいたします。

3 議題

(1)「第2期中原区区民会議を振り返って」

①取り組み報告

②各委員の活動報告と第3期区民会議に向けて

藤枝委員長 では、早速議題に入らせていただきます。

最初の議題は、第2期中原区区民会議を振り返って、その取り組み状況報告と、各委員の活動報告、そして、第3期区民会議に向けてでございます。

一昨年7月に始まりましたこの第2期中原区区民会議は、皆様のご協力をいただきまして、ここまで無事にとり行うことができ、まとめの時期になってまいりました。この区民会議は、私たち区民が、区役所と協働で、地域の課題をみずから発見し、みずから解決する、それを目的に設置されました。したがって、中原区の区民会議では、課題の提供や地域での実践報告を中原区民の方から行っていただきまして、解決策について皆さんと議論してまいりました。第2期では、3つのテーマについて検討し、現在、委員の皆様のご協力により、解決に向けた取り組みがいろいろな形となってあらわれてきたところでございます。

きょうは、第2期のまとめとしまして、この3つのテーマの取り組みについて、まとめの報告と、各委員の方の活動報告をいただきたいと思っております。

また、あわせて、今度、第3期に向けての意見交換もしたいと考えております。

そこで、きょうの流れにつきまして説明申し上げます。まず、1月の区民会議で行ったテーマの取り組み事項の進捗状況をもとに、第2期区民会議報告書を運営部会、正副委員長の確認を行い、作成しております。この報告書をもとに、区民会議と、区民、行政のそれぞれの取り組み事項の振り返りを行った後で、各委員の方から1人ずつ、第2期の区民会議委員としての活動報告や、委員を務めた上での感想などを発表していただきたいと思っております。

また、第3期区民会議に向けての提案とかご意見がありましたら、あわせて発言をいただきたいと思っております。

では、初めに、事務局から、その取り組み事項の説明をよろしくお願いいたします。

事務局 それでは、事務局から、第2期の取り組み状況を報告させていただきます。

資料1を準備いただければと思います。

それでは、説明いたします。

資料1の報告書でございますけれども、こちらは第2期中原区区民会議の取り組み内容をまとめたものでございます。

まず、1ページをおめくりください。右側に目次があるかと思います。第I章といたしまして、中原区区民会議の概要についてをまとめております。

また、第II章として、検討テーマの選定についてをまとめております。

III章では、第2期に取り組んだ3つのテーマをテーマごとにまとめております。

それでは、10ページをお開きください。こちらが第2期区民会議の最初に取り上げましたテーマ、「地域で取り組む放置自転車問題」の状況でございます。

まず、この表に基づいて、取り組み内容、具体的な実行方法等説明いたします。

まず最初に、地域・区民・区民会議の取り組みといたしまして、町内会・自治会を初めとした地域におけるマナー・モラル啓発活動として、啓発用のチラシ、ポスターを作成し、町内会を通じてチラシの各戸回覧、ポスター掲示などを行ったところでございます。

また、区民会議委員の出身団体などの取り組みといたしましては、啓発用チラシを各団体の会合等で配布し、啓発活動を進めるとともに、放置自転車の台数調査などを実施しました。

若い世代に向けた啓発活動では、とどろき水辺の楽校や市民提案型事業での出張講座などを行ってまいりました。

また、若い人が多く集まるイベントなどで、啓発チラシを配布したり、ホームページやかわさきFMなどを活用した啓発活動を実施してまいりました。

駅周辺の商店街における放置自転車対策では、新丸子駅周辺商店街をモデル地区として啓発活動を継続的に実施しているところでございます。

また、商店街における放置自転車対策の参考のため、中原区商店街連合会の総会で、第2期区民会議の中間報告書を配布させていただいております。

次のページをごらんください。次は、区民と行政の協働による取り組みでございます。

まず、地域における自主的な取り組みに必要な物品の貸与や放置自転車への警告札張りつけ、撤去活動などを区民と行政が連携して行いました。

昨年の春の交通安全キャンペーンでは、区民会議の皆様が区民会議の取り組みをアピールしてまいりました。

また、小杉駅周辺再開発地区では、横須賀線武蔵小杉駅の3月13日の開業に合わせまして、横断幕の掲出、声かけ、啓発物品の配布などを行い、放置自転車の禁止と、新しい駐輪場の利用促進を図りました。

その他の課題といたしましては、小杉駅周辺再開発地区をモデル地区とした自転車利用

者の動向調査の検討や、再開発地区の放置自転車禁止区域の指定、横須賀線武蔵小杉駅前の駐輪場整備などを行っております。

また、駅から離れた場所への駐輪場設置、自転車にかわる交通手段の検討については、参考意見という形で記載させていただいております。

なお、次の14ページ、15ページに、主な取り組みにつきまして詳しく紹介させていただいております。

次に、18ページをごらんください。こちらが2番目の検討テーマでございます、「これからの地域コミュニティづくりを考える」でございます。

まず、地域・区民・区民会議の取り組みといたしまして、町内会や商店街などにアンケートを行い、人が集まることができる場所の抽出などを行いました。結果につきましては、この報告書の中では、22ページの下段に、「地域コミュニティの場を見つける」ということで、地域の町内会館、自治会館等のご案内を掲載させていただいております。

次に、あいさつの実践におけるコミュニティづくりにつきましては、中原区まちづくり推進委員会と連携いたしまして、啓発用ポスターを作成し、中原区町内会連絡協議会を通じて掲出を行いました。

区民と行政の協働による取り組みにつきましては、小杉駅周辺の再開発事業の進展により、多くの方が新たに生活することになることから、3月13日の横須賀線武蔵小杉駅の開業に合わせ、地域の方が組織した小杉駅周辺再開発地区地域交流促進イベント実行委員会と中原区が協働いたしまして、中原区地域交流促進イベントを実施いたしました。当日は好天にも恵まれ、多くの方が来場いただき、出会い、交流する場を提供することができたと思います。

また、商店街コミュニティ事業につきましては、商店街が地域の情報交換や交流の場となるよう、マナーポスター展、いいなかプロジェクト、料理教室などを実施いたしました。

次に、市民活動の充実の取り組みといたしましては、市民活動の集いの前夜祭として、参加者同士の交流会を企画するとともに、開催当日は、来場者に対しまして、市民活動への参加を促す取り組みを行い、市民活動の活性化を通じたコミュニティの形成を図りました。

次のページ、20ページをごらんください。再開発が進む小杉駅周辺再開発地区等における地域コミュニティづくりの充実につきましては、講演会やワークショップの開催、また、啓発用リーフレットの配布等を行いました。

また、町内会・自治会活動を活性化するための支援といたしまして、加入促進用パンフレットの配布などを行いました。

大型マンション住民の組織化に向けた支援については、他都市事例の調査や、住民組織の交流を促進する働きかけを実施しました。

その他の課題といたしまして、ボランティア参加促進策については、参考意見として、また、区民会議で取り上げた課題解決の取り組みの窓口となる組織の検討については、実施主体の検討が必要な課題となっております。

次の22ページ、23ページで、検討テーマの詳しい内容を幾つか紹介させていただいております。

次に、最後の検討テーマであります「まちの魅力を見つける」でございますけれども、こちらにつきましては、28ページをごらんください。こちらのほうでまとめておりますが、地域・区民・区民会議の取り組みとしては、まちの魅力の発信・共有として、区民会議委員が挙げた魅力を各種情報媒体で紹介し、魅力の共有を図りました。こちらについては、26、27ページに、中原区区民会議委員があげた魅力ポイント（あなたにとって魅力あるところはどこですか？）という形で、中原区の地図の中に魅力スポットをプロットした形で区民の皆さんにご紹介させていただいたところでございます。

次に、区民と行政の協働による取り組みといたしましては、なかはらの歌による魅力の発信・共有といたしまして、区制30周年記念に作成したなかはらの歌「この街のどこが好き？」を商店街の放送設備を利用して流したり、3月13日に開催いたしました中原区地域交流促進イベントのコンサートの中で演奏するなどの取り組みを実践いたしました。

写真によるまちの魅力の発信・共有については、区民会議の議論を受けまして、中原区市民提案型事業において、まちの魅力の発信・共有をテーマとしたフォトコンテストを企画・実施する団体を募集し、昨日、公開プレゼンテーションが実施されたところでございます。

次に、中原区魅力紹介冊子による魅力の発信・共有でございますけれども、こちらにつきましては、平成20年度に、中原区市民提案型事業「中原区観光ガイド育成講座」の報告書をもとに、区民会議と連携いたしまして、区内の魅力の紹介や発信のツールとなるように編集いたしまして、中原区魅力スポットガイド「なかはらが好き」を発行いたしました。本日、参考資料の2として皆さんのお手元に配付させていただいておりますので、後ほどごらんください。

次に、映像による魅力の発信・共有でございますが、こちらにつきましては、中原区内の魅力スポットを紹介する広報用映像を作成し、多くの方に中原区の魅力を伝え、共有してまいります。

次の30ページ、31ページをお開きください。区民と行政の協働による取り組み、続きでございますけれども、二ヶ領用水竣工400年記念事業と連携した魅力の発信・共有につきましては、地域住民や市民活動団体の協力を得ながら、昔の生活様式や地域のエピソードなどを収集し、子どもから大人まで親しめるガイドブックを作成したり、「歴史と緑の散策マップ」の中で紹介しております二ヶ領用水・渋川コースを竣工400年を契機に改訂し、二ヶ領用水の認知度向上と区民のふるさと意識の向上につなげていきたいと考えてお

ります。

次に、地域の音楽資源を活用した魅力の発信・共有につきましては、区内の学校や企業などの音楽資源を活用し、JR横須賀線の武蔵小杉駅の開業に合わせ実施された中原区地域交流促進イベントの中で演奏等を通じまして、中原区の魅力の発信を行ってまいりました。

最後に、市政日より中原区版による魅力の発信・共有については、市政日より中原区版に掲載しております「この街のどこが好き?」、こちち、区民の投稿写真をもとに編集しておりますが、こちらを活用して、多くの方に中原区の魅力を紹介しているところでございます。

また、30ページ、31ページの下段には、「まちの魅力を見つける」についての取り組みの主なものを紹介させていただいております。

中原区の第2期区民会議取り組み事項の説明は以上でございます。

藤枝委員長 ありがとうございます。

それでは、各区員から報告に入りたいと思います。

第2期区民会議の委員としての活動報告や、委員を務めた上での感想を発表していただけたらと思っております。

また、第3期区民会議に向けての提案や意見もございましたら、あわせて発言いただきたいと思っております。

きょう、山川委員が所用で退席しますので、順番が変わりますけれども、きょうの席は山川委員が主役だそうで、出ないと会にならないので、山川委員からお願いしたいと思っております。その後は稲富さんという形で行きます。

山川委員 これからの地域コミュニティづくりを考える会ということで、私も中途から出てきたものですから、なかなか把握できなくて、大変申しわけございません。これも各町会とかいろいろなところに宣伝これ努めていただいて、最初のあいさつ運動なんかは、小学校を通じて、今、地元に着しているような形になっておりまして、非常によかったなと思います。私は参加していないのですけれども、大変申しわけございません。そのような形です。

それから、小杉駅周辺再開発、子育て支援、これも余りやっておりますけれども、大変申しわけございません。

この中で、私なんかも地元で子育てサロンを多少参加させていただいて、子育てのお母さん方は大変だなということで、参加人員も非常に多くて、いいんじゃないかなと、このまま引き続きやってこれたら、なおかつまたお子さん、それと母親あたりなんかもいいと思います。

そのような形で、報告としては非常にすばらしいことを続けて区民会議はやっているなというふうに思います。

それと、子ども会からですけれども、大型マンションが非常に多くできて、子ども会に入る人、それとあと、子ども会組織がどうするのかなということが、中原区子ども会連盟の中ではやっておりまして、参加はオーケーだよというふうな形にしておりますけれども、そこへ参加してくれているかどうか、ちょっとわかりませんが、なかなか難しいなど。こちらからも大いに呼びかけて、入るようにして、いろいろな行事に参加していただいて、魅力あるものを見せればいいのかというふうな形も思っております。これからも子ども会を充実してやっていきたい。全体から言うと非常にすばらしいなと思っております。

放置自転車なんかも、最近では少なくなりましたね。汚いものが放ってあるのが少なくなってきました。まちを歩いても、邪魔だなというのが少なくなっております。

以上でございます。

藤枝委員長 ありがとうございます。区民会議の提言が実現に向かえばいいかなと。

これから稲富さんのほうから回っていきますので、よろしくお願いいたします。

稲富委員 それでは、2回目の報告をさせていただきます。

私は1月から入らせていただいたということで、最後の最後で、中身を全体とはとられることはできなかったのですが、その一端として活動した内容について報告させていただきますと思います。

まず、地域コミュニティづくり、まちの魅力ということにおいては、3月13日に行われました小杉の新駅のイベントに参加をさせていただきまして、横浜、東京をつなぐ、真ん中のちょうどいい位置ということで、すばらしい盛大なイベントが開催できたのではないかなというふうに思っております。また、中原地区連合、中原地区の労働者の団体の中からボランティアで10名ほど参加をさせていただきながら、開催されましたコンサートの運営のほうにご協力をさせていただいております。当日、私も午前中のところは皆さんと一緒に同席をさせていただいて、以降、一緒にコンサート案内をしましたけれども、当選された方が当然来られましたし、当選されなかった方も、どうしても入れないですかと声をかけられたり、ただ、会場だけでも見に来たんですという方もいらっやあって、音楽のまち・かわさきのちょうど真ん中の位置に示す小杉のイベントとしては、非常にいい形で実行ができたのではないかと思っております。この新駅がスタートしていくいい皮切りということで感じながら運営をさせていただきました。我々の多くの仲間が今後この駅を利用させていただきますので、きれいなまちづくりにお互い気をつけながら、これは私の方からも伝えていきたいと思っております。あの駅のちょうど真ん前のビルに、私のグループのメンバーが2500人ぐらい、この5月に入ってまいりますので、そういう意味で、あの駅をNECさんと同じくらい使わせてもらおうと思っておりますので、一緒にまちづくりに引き続きご協力をさせていただければというふうに思っております。

2つ目は、まちの魅力のテーマのところですが、前回、私の富士通の春まつりの

ほうでやってみたいという話をさせていただきましたが、まず、吹奏楽部が11時半からだったかな、30分ほど披露するんですが、その中に取り込んでいただきまして、「なかはらの歌」の紹介と、あと、実際の自分たちのコーラスでやっていくということになりました。吹奏楽部は、西中原中学とのコラボで演奏をやるんですが、そこは中学生のほうが多分間に合わないのではないかとということもありまして、うちのブラスバンドが中で演奏して練り歩くんですけども、その中の一端でご紹介しながら弾いていただく方向で今練習を始めたところでございます。小杉・丸子の祭りとぶつかるんですが、お時間を見ながら来ていただければと思っております。

いずれにしても、この活動を通して思ったのは、働く者は一時的に通過をするということになるんですが、ただ魅力づくり、マップを見せていただいて、私も休日、家族を連れてきてみたいなと感じましたから、この活動をより広げて、引き続きやっていくということを少しやってもいいのかなと感じておりますし、また、「なかはらの歌」もできれば西中原中学がコラボでやっている延長でスタートしてくれれば、学校のほうで演奏されるということになっていくと、もう少し広がりもあるかなと思いますので、これも引き続き何かしらの形で来期も取り組みを続けられたらというふうに思いますし、一番は、先ほど山川委員も言われましたけれども、自転車の関係は、この1年間で相当大きく変わってきたと思っております。ただ、我々の職場もそうなんですけれども、整理整頓を怠るとすぐ緩みますので、やはりこれは引き続き来期もいろいろな取り組みを継続していくべきではないかというふうに感じておりますので、第3期に向けてもぜひお願いをしたいと思っております。

藤枝委員長 ありがとうございます。開業してたった1週間ですけれども、随分いろいろな変化が出てきましたね。これも開業イベントに向けて事務局でハッスルしてつくっていただいたんですけれども、大分関心があるようです。

大下さん、お願いします。

大下委員 私は中原区PTA協議会のほうから、去年の7月から参加させていただいて、取り組みの報告をさせていただきたいと思っております。

今期のテーマの第1回目の放置自転車問題につきまして、中原区P協の会員が今1万2200人ぐらい家庭数でいらっしゃるしまして、小中学校の保護者さんになります。そういった方たちに向けての取り組みの一環として、まず最初に、PTA協議会で毎月定例会をしておりますので、その席に自共生さんの芳賀委員のご協力を得まして、今の小杉周辺の自転車問題をお話しいただいて、そのお話をもとにこれから私たち大体が自転車を利用している者ということで、放置自転車問題に対しての啓発活動をお手伝いさせていただきました。それと、折を見ているいろいろなイベントの際に、こちらも芳賀委員にご協力いただきまして、自共生さんのほうでつくっていただいた自転車の反射板等を配付していただいて、各家庭すべてとはいきませんが、啓発を発信できたのではないかとと思っております。

それから、活動報告というわけではないかもしれませんが、各会議に参加させていただいて、そのときそのときに定例会等でまずは26校の代表者の方に区民会議での取り組みの詳細、私なりにですが、ご報告させていただいて、各家庭に発信していただけたのではないかと考えております。

報告は以上になります。

藤枝委員長 ありがとうございます。聞くところによりますと、駅前の駐輪場ですか、芳賀さん、3階までいっぱいですって。

芳賀委員 4月からなんですけれども、定期の申し込みが1000台分は、2月の申し込み前にいっぱいになってしまったんですね。それから、500台分が、一時利用ということで余裕があるそうですから、当日行って十分に利用できるのではないかと思います。現状ですね。それから、またさらに、これから200台分ぐらいの駐輪場があそこの周辺にできるそうです。ですから、今、定期利用者は満席ですけれども、一時利用者のほうはまだ利用できるスペースがあるのではないかと考えております。いずれにしろ、この再開発を契機に、すごい大きな駐輪場をつくっていただいて、3階建て、4階建てになっていますけれども、上に上がるのにはコンベアがありまして、自転車をそこに乗せるだけで上がっていただけますから、女の方でも重い自転車、買い物した後でも上に持っていけるということになっています。普通ですと自分で押して上がらなきゃならないんですけども、今回はコンベアが、自転車を乗せると自動的に動いてくれるということになっております。自動的になっていますので、非常にスムーズに上のほうまで行けるし、スペースも十分にとってありますので、皆さんでぜひ利用していただければと思います。

ただ、もう1つ、駅前だけではなくて、二ヶ領用水のほうも全面的に改修しまして、今までの倍ぐらいのエリアに広げてもらったんです。ですから、今までみたく、ただ路端に置くのではなくて、きちっとラックもつきました。それから、料金をとるようにはなりませんでしたけれども、管理人が常駐していますから、防犯の面なんか問題なく、よくなっておりますので、こちらのほうもご利用なされればいいかと思えますし、市民館のほうもまだまだちょっと延長されるそうです。今、3月までということになっていたんですけども、工事の関係で少し延びるそうですから、まだ旧市民館の駐輪場も利用できるということで、この再開発を契機に、小杉の駅前の駐輪事情というのは大きく変わったというふうに思っています。どうぞご利用ください。

大下委員 今、私、報告だけしかしなかったんですよ。今後について、ちょっとつけ加えさせていただいてよろしいですか。

私どもPTA協議会というか、PTAの活動というのは、子どもたちに対しての教育の基盤はやっぱり各家庭ではないかと考えて、そちらをもとに活動しております。それぞれの家庭で子育ては頑張っているつもりではございますが、何かとまだまだ至らない面もございます。ですので、どうぞこちらにもご臨席いただいている皆さん初め、多くの先輩方

に、これからもご支援のほどお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

藤枝委員長 ありがとうございます。

川連さんも最近はずいぶん活躍しているので、その辺のところも含めてお願いいたします。

川連委員 皆さん、こんにちは。川連です。皆さんのお手元にも行ってありますが、こちらのほうになりますけれども、15ページですね、今、ちょっと読ませてもらって、自分が始めたのが平成20年の12月かと、今思い出しているところでございます。現在ももちろん一生懸命各商店街の会長を呼んでやっております。新丸子の駅周辺も放置自転車が大幅減ってまいりましたけれども、小杉と違いまして、駐輪場が全くできないところでございますので、最近、珍しいというか、こんな人もいるんだなということが起きているのは、東急ストアの横にラック式の自転車置き場がありますけれども、ラックとラックの間に突っ込んである自転車が結構あるんですよ。そうすると、持っていかれる心配がないという、わかっているんでしょうけれども、そういう方が今非常にふえています。

私は委員になって初めてやろうということで始めたわけですがけれども、今は自共生さん、芳賀委員の協力を得まして、自共生プラス1人ということで、一緒に頑張らせていただいているところでございます。

それから、前回のこの会議で皆さんにも申し上げて、「この街のどこが好き？」という「なかはらの歌」、昨年、文化の日、エポックなかはらで、ここにいらっしゃいます副区長さんの指揮で演奏を聞かせていただきまして、こんないい歌があるんだなということを再確認しまして、私が言い出しっぺになりましたけれども、あちこちでイベントがあるたびに「なかはらの歌」をかけていただくということになりました。行政さんも一生懸命それに乗ってやっただいてるので、非常に満足しております。

それから、中原の魅力発見で、写真のほうも、前から申し上げていますように、私は写真が趣味なものですから、皆さんのお手元に、きょうは「中原まちづくり通信」が出ておりますけれども、こちらの中を見ていただきますと、こういう地図がありまして、写真が載っております。これも私は一生懸命協力して、こういうものがようやくでき上がりました。これからも写真のほうももちろん頑張っていきますし、放置自転車も一生懸命やっていきたいと思っております。

藤枝委員長 ありがとうございます。写真の趣味ではなくて、プロでございまして、さすがでございます。

また、小野寺副区長が指揮者の素質があるということを初めて聞きました。聞きたかったですね。

佐野さん、どうぞ。

佐野委員 こんにちは。佐野でございます。

自転車につきましては、芳賀委員が一生懸命やっただいて、まちの中がきれいになったと思っております。なるべく私も歩くようにはしているんですけども、青少年指導員連絡協議会のほうでも啓発活動を行いまして、チラシを配ったり、マナーの問題も、夜昼なく、子どもたちや、夜、結構無灯火の方が多いので、注意じゃなく、声かけという形の行動をさせていただいております。そんな小さな力ですけども、大きな力になっていくのかなと、芳賀委員、ご苦労さまでございました。

それから、これからの地域コミュニティを考えるとということで、武藤先生のお話を受けて、感銘を受けて、活動を行ってきたこともこれから報告していきたいんですけども、今、川連委員のほうからお話がありました、11月3日、吹奏楽コンサートを協働事業でやらせていただいておりますけれども、その中で「なかはらの歌」ができた、その年から、吹奏楽コンサートの中で曲を大西学園が演奏してくださって、歌を歌っております。そういう啓発もやっていращやることをあれしておいていただければいいなと思っております。吹奏楽コンサート、この間、11月3日に終わったんですけども、今、記念誌をつくっております、「なかはらの歌」、「この街のどこが好き？」ということで1ページの中に加えさせていただいて、またでき上がりましたら皆さんのところにお届けできたらうれしいなと思っております。4月ぐらいにはできる予定でおりますので、楽しみにしていただきたいと思っております。

あと、自主グループのほうで私が活動してきた内容を少しかいつまんで報告させていただきたいと思っております。資料4をごらんいただきまして、全部お話ししたら大変なことになりますので、裏表4ページになりますので、見ていただければありがたいと思っております。

自主グループは中原市民館で自主企画講座というのがありまして、中原のまちがどんなまちになるのかなということで、皆さんからご意見を伺いながら、この地域をよくしていこうということで、年間5回講座を行わせていただきました。人口が多くなること、新駅ができることもありまして、マンションの方ですとか、最近、プライバシーの問題とか、個人主義の方が非常に多く見受けられるということで、一たん事が生じると孤立化する傾向が多く見られるということが、それは高齢者、ご病気の方、子育ての方、教育や福祉の中でそういうことが問題が生じてくると思っております。先日、全国調査で小杉のまちは住みたいまちナンバーワンということをお聞きいたしました。すなわち住みたいということは、住んだことのない人のことなんですね。と思っております。本当にこのまちがそれにふさわしいまちなんではないかということで、すべての人たちが社会の一員として地域社会や行政と連携を組んでいくことが重要だと考えて、この講座をやらせていただいたような趣旨の内容でございます。

5回の講座は一覧表でございますので、見ていただければありがたいと思っております。第1回目は防災について、これは人を呼ぶために防災が一番食いつきが早いかなと思っておりますので、そのときもこの区民会議のテーマである地域とのコミュニティ、日ごろのおつき合

いが大事だよというお話を伺っております。

それから、2回目は、マンションに暮らすということとはどんなことなのかなということが、私たち、一軒家に住んでおりますので、80%ぐらいが、もっと数字が伸びていると思えますので、そういう方たちが地域の中で集合住宅や高層マンションに住んでいるというパーセントがあるようなので、どういうことなのかなということを勉強させていただきました。その中では、よりよい人間関係の形成をつくることが大事ではないかなということ、あと、トラブルの内容につきましては、第1位が住居者間のマナーの問題が非常に多くありまして、違法駐輪がトップだそうです。違法駐輪と違法駐車ですね、生活音、ペット、リフォーム、廊下等の私物放置とか、バルコニーの使用の方法だとかというのがあるそうでございます。

あと、子育て編につきましては、子育てするということはチャンスなんですよということで、これも素敵な言葉をいただきました。子育てに優しいまちはみんなに優しいまちだということをお伺って、中原区は子育てサロンがたくさんありますので、そういう雰囲気が伝わってまいります。

防犯編については、中原警察の方に来ていただきまして、これも日ごろのあいさつでコミュニケーションをとるということは、泥棒さんも近寄りにくい。それから、家に入るときは、変な人が中に入っているかなと思ったら、1回キンコンを鳴らして5分間待ってから入ったほうが、命までは奪われないよというお話も伺っております。

最後に、まとめ編も行いまして、参加者から出た意見につきましては、小杉周辺のまちを車の入らないまちにしたらどうかとか、いろいろな意見を伺っております。内容は見ていただければありがたいと思います。

先ほど区長もお話ししましたように、きょうのタウンニュースの中で、児童数がふえていくということで、今、藤枝委員長と山川委員と私が、上丸子小学校のコミュニティスクールの委員として入らせていただいております。下沼部がこんなに多く児童がふえるということは夢にも思っていなかったんですけども、今後、武蔵小杉の駅前ですか、あそこが建つと、上丸子もかなりすごい状況になるということで、市教委さんも今後検討していくというふうに書いてありましたが、今後では遅いんですね。はっきり言って。プレハブもいいかもしれませんけれども、その辺のところも、成長段階を抱えている子どもたちの影響をもっともっと考えていただきたいなということがありました。

やはり高層マンションに住むということはいろいろな体の問題、心の問題が起きてくるようなのです。そんなことで、私もこの1年、活動させていただきましたことを報告させていただきます。いろいろな面で頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

藤枝委員長 ありがとうございます。うちのほうのある町会は、人口増加率240%という町会、あの59階のね。そうすると、いろいろな問題がこれから出てくると思いますが

ね。

富岡委員、お待たせいたしました。

富岡委員 私は、中原区社会福祉協議会という立場で出席させていただいておるんですが、コミュニティを考えるとということであると、やはり地区社協の活動かなと思ひまして、ここに資料5というのを提示させていただいております。全部読むのは大変ですので、ざっと目を通していただければいいかなと思っております。

地区社協は構成員が町会とか自治会長さん、それと、その町会の女性部員、それから、民生委員児童委員、主任児童委員と保護司さん、青少年指導員とか体育指導員、学校の先生が入っている地区社協もございます。NPOとか福祉施設、グループホーム、これらは地区社協のメンバーです。それを束ねておるのが中原区社協でございます、こちらのほうは行政だとか、福祉関連施設の人たち、NPO法人の方々、ボランティア団体の人たちが構成して思ひます。

それで、地区社協は中原区に5地区社協ございます。玉川、丸子、小杉、大戸、住吉とございまして、それぞれの町会がここに入っております、町会の行事と似通った構成で、似通った活動をしておると言え言えるのでございまして、町会でも防犯部とか保健福祉部、青少年部、これは子ども会等でございますが、女性部とか、文化部とか、あるわけでございます、それをある地域まとめたところが地区社協でございます、この中にも総務企画部、これは調査宣伝部と昔は言っておりました、女性部、高齢者福祉部、保健福祉部、青少年福祉部というような感じで、似通って、ちょっと違うところもございしますが、大体内容としては同じような感じでやってきております。

それで、コミュニティということで、高齢者福祉部は、女性部で今のところはひとり暮らし老人会食会等を行っております。そして、青少年部のほうで子育てサロンというのを行っております。高齢者福祉部はそれぞれ地区で違うんですが、車いすで外出が困難な方々をお呼びしましてお花見会をやるというところがございます。そういった関係で、いろいろな行事をやっておるわけですが、子育てサロンなんかもとともいいことでございます。それから、学童の通学路の安全確保運動といひまして、通学時に交通安全とあいさつ運動を兼ねまして声かけ活動等をしておるところもございます。そういった関係で、いろいろ行事を行っております中で、コミュニティづくりを行っておりますわけですが、一番もとは家庭ですよ。それから、向こう3軒両隣、ご近所づき合い、それがまとまったところの組織が町会だと思ひます。その町会を各ブロックに合わせたところが地区社協でございます、そこでいろいろなコミュニティづくりを行っておりますというような感じでございます。地域との連携が一番大事でございます、地域との交流を深めて、お互いさま、人間関係の構築をしていくということが大事なことだと思っております。

社協としてもいろいろな活動をしております。また、区社協としても、もっと広範囲な活動ということで、移送サービスだとか、障害者支援の障害者児リフレッシュ事業等々行

っておりまして、資料を見ていただければいいと思いますが、要するに地域とのつながりを深めていくということが大事だろうと思っております。そういった関係で、これからの地域コミュニティづくりということで、再開発地域の人たちを社協という組織に組み込んで、その参加団体、参加委員として入っていただいて、一緒に協働するとか、行動するとか、そういったことで取り組んでいくということしかないのかなと思っております。早急にはちょっと難しいでしょうけれども、今、吉房さんが一生懸命やっただいております。また、佐野さん等も再開発地域の人たちとのコミュニケーションづくりをしていただいておりますので、それをどんどん発展させて、延長させていきたいと思っています。また、社会福祉協議会もそこにどんどん入って行って、一緒にやっついていかないと、あの地域の人たちは取り残されちゃうのかなんて思っておりますので、我々も本腰を入れて取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。ありがとうございました。

藤枝委員長 ありがとうございました。今、社協も頑張っていますので、よろしく願います。

では、内藤さん、どうぞ。

内藤委員 私は、メンバー表によりますと、公募で参加させていただいているんですが、区役所の中にありますなかはら20年構想委員会という副委員長もさせていただいております。これは竹井さんや、隣の芳賀さんも関係して一緒に活動したりすることもあるんですけども、その中で、例えばきょうの冊子の31ページに出てきました「なかはら歴史と緑の散策マップ」をつくって、中原のよさをアピールしようというのとか、それから、50年前の小杉と今の小杉を比較する今昔マップもついこの間つくりました。あと、うちの下小田中が中原の花のパンジーで有名なので。これ、今、芳賀さんが持ってきて。これが50年前の小杉をこうやってやって、中をあけると最近の、こういうのを私たちのなかはら20年構想委員会でみんなで作ってきたんですね。今、話しかけましたパンジー農家さんと協力して、通学路、通勤路に花がきれいに飾ってある、そういう心が慰められるようなまちにしようということで、パンジーの花回廊宣言というか、パンジー宣言というので、皆さんも3月13日の新駅のときに足元に、ちょっと邪魔だったかもしれないですが、あのときはすごく人数が多かったんですけど、パンジーの花を飾らせていただいたのを私たちの20年構想委員会がさせていただいて、みんなでこのまちを盛り上げていこうという活動をしております。

あと、私個人が自分の事業所では、第1回の区民会議のときに竹井さんが提唱されました地球にいいことプロジェクトというのを、今も竹井さん、頑張っていてくださっているので、私も大人として、お父さんとして、次の子どもたちにいい環境を残してあげたいということで、あれは大賛成で、事業所では生ごみを畑に、うち、子どもたち用の小さな畑があるんですけど、生ごみや枯れ葉でもって堆肥づくりをしたり、雨水を利用したり、

とにかく竹井さんの活動にはできるだけご協力できればなと思って、これからも続けていきたいと思っております。

簡単にかいつまみますと活動状況はそんなところで、これからに向けてというか、今後のことなんですけれども、中原区民会議だより、ことしつくってくださって、この7号に、右のほうなんですけど、この方が言っていることと私は同じ意見なんですけれども、もしかしたら私が言ったことかもしれないのですが、中原区には魅力がいっぱいありますよね。これらの魅力を否定する人はいないと。ただ、若者たちがこれを同じように見て、若者たちにとって、中原、魅力があるなと言うかどうかはちょっと疑問だなと。ただ、今後、行政や、まちのリーダーの方たちは、次世代に伝えるために魅力をつくり出す努力を持っていただきたいという追加意見がありましたと書いてあって、私の意見か、どなたの意見か、私と同じ意見なんです。

先ほど小杉が確かに魅力あるまちというんですけれども、どうも今の現状だけ見ていると、新駅のお祝いのパーティーにも私も参加して、目の前の大きなビルを見上げていて、今の現状は、小杉というのは本当に寝に帰るだけのまち。あのマンションに住まわれている方、それから、二千数百名も今度新たに小杉でオフィスを構える方は、多分、小杉というのは、交通の便がよくて、ほかで憩いやくつろぎや安らぎを求めて、きっと武蔵小杉には寝に帰ってくる。もちろん日曜日、家族と一緒にこういう場所を散策したり、二ヶ領用水の桜を見に行ったり、どこかの音楽会に行ったり、時間をつぶして、もちろんそういう安らぎはあると思うんですが、私が考えている小杉というのは、川崎市の中で音楽のまちとか、スポーツのまちといったときに、もう少し小杉が本当にその中核になれるような今発展段階なので、何とか今後は音楽のまちでも。

例えば映画のまちとか、音楽の大学があるまちとかとございますよね。小杉は正直言って、市民館のコンサートといっても、あそこ、市民館、余りコンサートをやっていないようなんですね。この間、阿部市長さんたちの式典の後のコンサート、私も聞きに行かせていただいて、1部のほうは残念ながら人数が少なかったんですよ。あれだけいいのを聞かせていただいたのに。1時からきつといっぱいになったと思うんですけど。だから、もったいないなと思ったんですけれども。ぜひ新市民館での音楽活動の強化。ここにいらっしゃる方で、新市民館関係者がいらっしゃるなら、もちろん何をやっても、どなたが使っていいわけで。ただ、ああいうホールというのはないんですよ。私の近くに川崎市交流センターもあるんですが、あそこのホールで音楽というのは、いまいちレベルがそれほど高く行かない。せつかくの新市民館ですから、あそこのいい新市民館に合う、ホールに合うような、ちょっと言い方は悪いかもしれないですが、文化の香りがするような音楽会がもう少しあるまちですね。

私は、劇団四季をやめた人たちが私の身近にいるものですから、できればミュージカルのまちなんかが川崎で。横浜の「キャッツ」を見に行くと9800円なんですね。浜松町の四

季を見に行くと1万幾らなんですね。そこまで出さなくても、地元で子どもたちが親子で一緒に見に行けるようなミュージカルが見られるような場所ができればいいなど。私の夢が幾つかあるうちの一つの夢が、そういう場所がいつかできるようなことがあれば、そういう面で、文化の香りが、プロの人たち、私たちがお金を払ってもいい、そういうコンサートがこの小杉近辺でできる場所が確保できればなど。

かつ、皆さんも、多分、小杉でおいしい場所をどこか紹介してくださいと聞かれたときに、ないですね。例えば年に1回でも2回、家族が予約をとって、ミュージカルを見て、それから、お食事をして、しゃれたところで、たまにはというときに、小杉はもう対象にならないですね。今の時点では。やはり横浜になったり、渋谷、新宿になったり。ですから、何か私としては、おしゃれで、おいしいものも食べられて、文化の香りができるコンサートなりミュージカルが見られるような小杉に成長していつてもらいたいなど、本当に心底思っています。

もう1つ、川崎はスポーツのまちですね。フロンターレがもしかして去年、パレードしたかもしれません。近くに法政大学野球部のグラウンドがありまして、法政二高のグラウンドもあるんですね。武蔵小杉でパレードがあったのは、法政二高、柴田さんが甲子園で活躍したときにパレードがあっただけから、多分50年ぐらいいはないと思うんです。去年、法政が優勝していれば、法政、パレードをやる予定だったんです。フロンターレが優勝していればフロンターレがやったんですけどね。ですので、スポーツも近間にあるので、ぜひスポーツのまちの徹底というか、皆さんで意識して、子どもたちがそういうスポーツに目を向けられるような環境づくり、フロンターレさんでもいいですけども、どうぞ皆さんも、法政二高なり、法政大学のところに観覧席もあるので、見に来て、子どもが身近にプロの、または本当にすばらしいスポーツに接せられるような状況を武蔵小杉近辺でつくればいいなどというのが私の今後の希望で、区民会議の次の皆様にはぜひそこら辺も意識していただければなど思っております。

以上です。

藤枝委員長 ありがとうございます。確かに寝に帰るまちにはしたくないですね。

今、内藤さんがおっしゃっていましたが、スポーツ、前にこういうことがありましてね。近所の小学校の先生から、あそこの等々力へ行くと、グラウンドの中でやっている子どもたちがいるから、中原の子どもたちもできないかと言われて、武田さんにすぐ言ったんですよ。そうしたら、済みませんが、あの坊やたちはスポンサーのお子さんたちですと言われちゃったんです。でも、かわいそうだなと思って、何とかならないかねと社長に言ったら、1週間したら使わせてくれましてね。あの中でサッカーをやった子どもたちの感激というのは、我々の想像を絶する喜びでしたね。そういうまちにしていきたいなど思っています。

芳賀さん、どうぞ。

芳賀委員 自転車と共生するまちづくりということを一筋に10年間やってまいりまして、去年から第2期の区民会議で、1番目に我々の課題を取り上げていただいたということで、非常にありがたく思っております。この会議を通じまして、いろいろな関係団体との連携ができたというのが何よりだったと思います。まず、小杉2丁目さんとか、新丸子さん、それから、水辺の楽校さん、区Pさん等々の団体から声がかかりまして、お互いに活動を連携しようというのとか、こういう集まりがあるから来て、出張講座をやってくれとか、そういう話がありまして、我々、小さな団体としてやっているときには、それほどまでなかなか手が届かなかったんですけれども、そういう声をかけていただいて、機会をいただいたということで、我々も本当に身に余るところがありました。この2年間、うちの委員会としては過大な活動ができたのかなというふうに思っております。結果、皆さんのほうからもお褒めの言葉をいただいているということで、きれいになったねと言われております。

ただ、昨年11月に放置自転車の調査というものをしました。これは私どもの委員会が始まって以来、ずっと毎年10月末から11月に調査をするということで、定点調査ということで、同じ場所を同じような目で調査します。ですけれども、約1500台という自転車はほとんど変わらないです。少しずつは減っています。減っていますけれども、台数的にはそんなに変わらないんですね。ですから、道路のキャパシティがそういうことになっちゃっているのかなと。駐輪場のほうはその間すごく増設されまして、今回も1500台も大きな駐輪場ができたということで、これからまた駐輪場が本格的に稼働し出したときにどういうふうになるか、これは非常に楽しみにしているんですけれども、先ほどもちょっと説明しましたように、1000台分の定期の予約は2月中に締め切られたというか、2月締め切りでは抽選になってしまったようです。結局、応募者が多いので。ただ、当日が500台分用意してあるということで、十分に今まであった既存の駐輪場、1つくらいの当日利用ができるような状況になっていますので、そういうところを皆さんで利用していただければ、小杉の環境はもっともっとよくなるかなと思っています。

そんなことで、いろいろな団体が協力をいただきながらやりまして、その間、呼びかけ活動等も月に2回ぐらいやっておりまして、参考資料6に私どもの前回の区民会議からの活動をまとめてあるんですけれども、その中で一番上にイベントというところで書いております。これもこの期間中に9回やらせていただきました。結局、啓発イベント、区民祭、小杉の桜まつり、市民活動の集い、そういうところの場所を借りまして、放置自転車をなくすための啓発活動をしたと。これがきのう数えてみましたら9回ありました。それから、放置自転車のほうは、この期間中、雨天もありますけれども、それを抜いて31回活動して、その間に653人の方を動員したと。これはボランティアで立ってくれた方ですね。そういう方を数えましたら653人いらっしゃるということで、これもひとえに皆さんの後押しでできたというふうに思っております。

それから、区Pさんや、水辺の楽校さんにも資料を配っていただくとか、そういうのを
お願いしておりますし、今度のも配布の委託をしたのが3回、それから、出張講座が3回
ということで、今まで我々ができなかったことがここで皆さんの協力でできたということ
です。

それから、二ヶ領沿岸の放置自転車の調査等、この調査は年に2日、2回ですね、先ほ
ど言いました調査をしております。これは正確に統計があるのは平成16年から統計があり
ます。ですから、どこの場所でどのぐらいの自転車が何時ごろあるという統計は全部持つ
ておりますけれども、その中で、トータルで見ますと、少しずつ減っている。それよりも
何よりも、行政のほうの関心が高まりまして、整理員という形で、シルバーさんとか、セ
ントラルさんとか、そういうところの団体の方に自転車を並べかえていただいている。そ
れが小杉の自転車事情を見た目で非常によくしているということだと思います。その台数
は変わらなくても、あのようきれいに並べれば、皆さんが安心して通れるまちなになる
ということじゃないかなと思っています。この2期の区民会議と再開発の進行と、非常にタ
イミングがよくて、今回我々がこの課題をやっている間に大型の駐輪場ができたり、二ヶ
領用水の沿岸が全部整備されたり、そういうことで、区民会議のおかげで、こういうこと
が我々の希望することができたのかなというふうに思っております。

それから、マスメディアの取り上げ方も非常に多くなりまして、やはり区民会議という
ところでのそういうあれが大きかったのかなと思います。我々がやっているころはこうい
うことをやりますからぜひお願いしますということ呼びかけても、なかなかマスメディ
アの方、来てくれなかったんですけれども、この期間中はケーブルテレビジョンとか、
新聞の方、今回特に、今月に入りまして2度ほど大きな新聞社から私のほうにインタビュ
ーが参りました。そういうことで、どうでしょうかと言うから、中原は絶対大丈夫ですよ
と、行政も民間も団体もみんな一生懸命やっておりますというふうな答えをしておいたん
ですけれども、そういうことで、私どもの委員会としては、これからも今までどおりの活
動を続けていくという所存であります。

それから、コミュニティの問題。これにつきましては、私は個人的には学校とも関係し
ているところがありますので、そちらのほうで子どもたちを通じてまた地域のコミュニテ
ィ、子どもたちとの間に立っていききたいなと思っています。

それから、まちの魅力については、鈴木さん同様、散策ガイドの会の方に入会してお
りますので、そういうところで、いろいろなところからいらっしゃった方にガイドをする
かたわら、中原の魅力を紹介していきたいというふうに思っております。

ちょっと長くなりましたけれども、以上です。

藤枝委員長 ありがとうございます。自転車は区民会議の中で人様の目に一番見えると
ころで動いていますので、4年間の活躍は大きかったですね。

藤嶋さん、お願いします。

藤嶋委員 文化協会のほうから出ております。前にもお話ししましたが、「なかはらの歌」を文化協会のほうで踊りに振りつけまして、文化祭には、できて以来、踊っております。今度の3月24日、二ヶ領用水のシンポジウムがありますが、そのときも「なかはらの歌」をオープニングで踊ります。あと、学校のふれあい教室とか、そして老人の慰問なんかにも、これからは「なかはらの歌」を歌ったり、流したり、踊ったりというようなことをしていきたいと思っております。

あと、放置自転車なんですけど、この辺はとてもよくなったんですが、平間のところは全くと言っていいぐらい、今、市古参事もいらっしゃるんですが、本当に遠くになってしまっているんですね。私たちとしては近くがということなんですけど、女の人はどうしても持ち上げたりとか、いろいろ大変なので、100円払っても何でもいから、常勤の人を置いていただきたいという、そういうような願いがあります。

それと、この「魅力」なんですけど、新駅のときとか、交流会のときに配られまして、皆さんが感激しておりました。行政の人たち、おつくりになるのは大変だったんじゃないかなと思っております。今回の報告書もとてもきれいで見やすく、これだったらだれでも見ていただけるんじゃないかと思っております、楽しみにしております。

それで、この間の交流会なんですけど、その後に、ほかの区民会議の人に会う機会がありましたら、中原ってすごいねと、やっぱり生き生きして発表していたと。また、藤枝委員長が、中原は若い人も中に入って一生懸命やっていますというようなことを言ったので、ほかの区の人たちが大変うらやましがって、また、市長さんが、中原区が発端になって始めたところですからというようなお言葉もいただいて、傍聴させていただいた私としてはとてもうれしかったような次第です。

実はこのようにとても魅力があって、スポーツのまちにも、小杉から等々力にもしたいのか、もっと小杉の駅のところにいいお店が欲しいなというような思いはあるんですが、昨日ですが、中原警察署の生活安全課長さんのお話がありまして、中原区としては犯罪は少ないんですが、最近でも麻薬でライターのようなので、ずっと吸って、手軽に入るようなものが多いので、そうしたら、その中に聞いていた人が、住吉神社で、私はドリンク剤だと思っていたら、そういうものが落ちていて、また次の日も落ちていたというんですね。ですから、せっかくこのような魅力のあるまちをみんなで目指しているんですが、そういうようなこともあるということを私たちは頭から離さないでいかなきゃいけないと思っております。新城の駅の前でも外国人の人が麻薬をとということも聞いておりますし、その点もいつも思っていないかと思っております。

あそこの高層マンションに引っ越してきた、お年いった方がやっぱりこういうところで生涯最後を送りたいとあって、何人かの方なんですけど、私、ちょっと接する機会がありまして。そうしたら、いろいろな場所というのは自然にわかるので、いいけれども、何しろお友達が欲しいというんですね。60代、70代の人なんですけど、どうすれば友達が私たちぐ

らいの人ができるんでしょうかというようなことがありました。若い人も大事なんですが、そういう人たちもいるということもよろしく願いたいと思います。

私はスポーツのまちということ、小杉から等々力のところに、もっと活性化したらいいんじゃないかなというようなことをいつも思っております。

藤枝委員長 ありがとうございます。「なかはらの歌」の振りつけは難しいんですか。

藤嶋委員 やさしいです。中原区文化協会の踊りの先生方がつくった踊りなんですけど、結局は音頭にはなっていないので、ちょっと待つところなんかできて、ハンカチ持ってやるんですね。手を振ったり、あと自転車に乗って。丸子の桜まつりにもいつも踊っております。区民祭にも踊っております。

藤枝委員長 藤嶋さん、ありがとうございます。

本目さん、お願いします。

本目委員 私のほうからは、区民会議の感想と、あとは今後の区民会議への提案の2つについてお伝えさせていただきたいと思います。

まず、感想なんですけれども、皆さんとはちょっと違って、私は区のために何か私にできることはないかという思いで応募して、区民会議委員として約2年間務めさせていただいたんですけれども、地域の活動に参加するということは、日常の生活で、仕事と家の両立をしながらというのは非常に難しく、皆さんのようにはできなくて非常に残念だったんですが、ただ、会議を通じて、少しでも私たちのような若い世代の声を伝えられて、少しですが、伝えてこれたのではないかというふうに思っています。

その中で、これからの区民会議への提案ということにつなげますと、ぜひ若い世代がこの区民会議の場にもっと出てきてほしいなというふうに思っています。若い世代のやる気の問題もあると思うんですけれども、無理やりにも配置してしまっていて、いろいろな意見を聞いていただきたいなと思っています。先ほどのお話にもありましたけれども、横須賀線の武蔵小杉駅もできて、中原地区はより発展していくかと思えます。若い世代、子育て世代というの、先ほどからお話を聞いていても、ふえているんだなというふうに実感しています。もちろん、皆様方のような非常に経験豊かで、さらに実績も信頼もあるような方々で区民会議が形成されているというのは素晴らしいことだと思うんですが、何の実績もない私のような者が入ることで、逆に皆様方から、ああ、こういった世界もあるんだということを教わることで、非常に勉強にもなりましたし、それとは別に、若い世代、こういうふうに考えているんですということを少しでも伝えられたかなというふうに考えています。

例えば私は仕事柄、非常にバイタリティーあふれる学生さんとも会う機会があるんですけれども、早稲田の地区とかで、アトム通貨というのはご存じですか。商店街活性化のために地域の通貨をつくらうといった学生さんとかもいたりするので、そういった学生さん、恐らく探せば中原区にもいるんじゃないかと思うんですね。学生さんだと時間もあり

ますし、その時間を活動に費やすというバイタリティーもありますので、そういった方々がこういった会議とかに参加していただくと、非常に活性化するのではないかとこのように思っています。

男女については、比率を何%以上にするということで、この中原区民会議、賛成されていると伺っていますが、ぜひ世代についても、一歩先を進んでダイバーシティ社会ということで、さまざまな世代が中原区民会議には参加していますと胸を張って言えるような会議にしていきたいなと思います。

ありがとうございました。

藤枝委員長 ありがとうございました。でも、中原区は、本目さんを初め若い方がいらっしゃるので、他区に比べてダントツに若いんです。今、藤嶋さんがおっしゃったように、7区が集まって会議しますと、中原区は若いんですよ。若い人の意見が通っている区民会議だなと思っております。

松原さん、お願いします。

松原委員 松原です。第2期の区民会議を振り返りますと、区民の目線で議論が本当にされたのかなというような観点も私は感じております。しかしながら、地域のコミュニティということで、私ども、いろいろ考えて、実際にやったことがあります。それは社会福祉協議会のことに携わっている関係上、人集めをしてコミュニティを図ろうということで、いろいろ議論したんですが、なかなかいい題材がないということで、じゃ、こういうことをやったらどうだろうということで、リバイバルの映画会をやろうと。最初に「愛染かつら」をやったんですね。田中絹代さんと上原謙さん。そうしましたら、大入り満員で、立ち見席が出るほどだった。この映画会が地域のコミュニティに非常に役立ちました。その後、20分間ぐらいいろいろなお話をしました。老人問題、町会の問題、民生委員の問題、保護司の問題、こういう関係を、題材によっては、これは人が集まるんだなということをつくづく感じました。

次にやったのは「青い山脈」なんですね。これはまた大変な入りを見ましてね。もちろんこれは無料でございます。ただ、カメラを回していただく方の経費が3000円ほどかかりましたけれども、非常にいい結果が生まれました。今後もこういうことによる地域のコミュニティづくりをしっかり根づけていきたいと、こんなふうに思っております。

以上です。

藤枝委員長 ありがとうございました。「愛染かつら」、「青い山脈」、すごいものですね。

松原委員 いいでしょう。

藤枝委員長 ええ。

松原委員 たまには見ませんか。

藤枝委員長 いいですね。絶対見たいですね。

じゃ、松本さん、お願いします。

松本委員 子育て支援のほうから出ております松本と申します。きょうの参考資料、皆さんの参考にならないと思いますけれども、一応私なりに子育て支援にかかわっての取り組み報告ということで、参考資料7をつくらせていただきました。中原区全域で子育てサロンが開催されてもう6年がたちました。サロン会場というのは、地域コミュニティのまさにコミュニティの場であるということで、あとは中原区の魅力を次世代につなげていく当事者がお母さんたちであるということで、そういう意識で取り組んでおります。

放置自転車の件に関しましては、いろいろポスターとか、サロンの中でお母さんたちに協力を呼びかけたり、交通ルールもそうですけれども、公共施設の利用時のマナー。やはりマナーというのは最初から始まると思ひまして、例えばベビーカーの置き方にしても、自転車の駐輪にしても、やはり私たちがちょっとアドバイスをしないとなかなかきちんできないというような現状がありまして、その辺を声かけをいたしました。

駅前がとてもきれいになったのはいいんですけれども、私が住んでいるところから近いんですが、小杉タワープレイスの周りにいつも自転車が乱雑にとまっておりまして、景観上もよくないと思うし、強風ときには自転車が飛ぶんですよ。それが飛んできて危ないなと常々思っておりますので、ぜひこの辺も早目に改善していただけたらなと思ひました。

それから、私は児童委員もやっておりますので、民生委員児童委員なんですが、あいさつ運動というものを今やっております。それで、児童に対する声かけをしておりますし、同じくサロンのほうでもあいさつは必要であるということで、みんなであいさつをしております。

再開発地域の中でNPOさんがやっておりますパパママパークこすぎという子育てサロンのほうにもお手伝いに行かせていただいておりますが、こちらには第4土曜日も開催しております、お父さんがサロンに連れてくるんですね。お母さんとお父さんが一緒に来るんです。それで、お父さんたち、最近ちょっとふえてきまして、お父さん同士の交流ということで、意見を聞く機会がありましたけれども、やはりいつも仕事が遅くて、帰ってくるのが12時近いということで、なかなかふだんの日には親子のコミュニケーションが図れないけれども、休みの日はということで来ております。引っ越してきて1年たっても全然まだ周りが知らないという方も多くて、初めてサロンに来て、お父さん同士が「こんにちは」から始まって、子育てのこととか、まちのこととか、やっとならで話ができるという場を設けることができますので、ぜひこの貴重な場をもっと地域の発展のために使えていったらいいのではないかと思っております。

それから、ここのところ、やっとならです。マンションにお住まいの方たちがボランティアとして子育て支援に参加するようにやってきました。これも1年半ぐらいかかりまして、やっとならそういう余裕が住民の方にも出てきたのかなと思ひます。たくさんの方たちに、自分たちの地域の子育て支援を、中原区ではみんなそうやって地域の方が自分たちのまちに

住んでいる子どもたちの支援をしておりますので、ぜひそこを再開発地区でもお願いしていききたいと、呼びかけはずっとしていきたくて思っております。

それから、まちの魅力なんですが、この魅力冊子を早速お母さんたちに配布しまして、「なかはらの歌」もかけました。中原の印象を聞いてみました。なかなか若い方の意見は聞くことがないんですけども、一番多かったのが、緑地があって、多摩川があって、自然環境に恵まれていて、まさに子育てには抜群の環境であるという意見がたくさん出てきました。あと、都心へのアクセスがよくて、外出しやすい。それから、サロンのようなコミュニティが幾つもあるので、子育てに助かっている、それから、パンジーがとてもきれいという声が出てきております。それから、都会のようだけれども、まだまだ下町という感じで、神社のお祭りとか、年末に火の用心が聞こえてきますと、子どもたちの声が聞こえるという意見もあります。あと、まちを歩いていると、知らないおじさんお婆さん、おじいちゃんおばあちゃんでも子どもに声をかけてくれるというところがとても温かみがあって、住みやすいまちだということでした。

反面、ショッピングですね、まだ開発途中なんですけれども、どうしてもベビー用品を買うところが少ないとか、母親もたまには楽しみたいんですけども、遊ぶ場所とか、ショッピングをすることが近くにないという意見も出てきております。

私は児童委員のほうで全国の大会がありまして、そのシンポジウムの中で中原区の子育てサロンというところを全国のほうに発信させていただきまして、区役所のこども支援室が作りましたサロンの様子をDVDに撮ったものがありますので、それをその場でちょっと紹介させていただいて、中原区はこういうまちですというところのPRをさせていただきました。先ほど本目さんもおっしゃいましたけれども、やはり次の会議には、ぜひ若い世代の人たち、もうちょっと若い方も委員の中に入れて、取り組みをするのであれば、若い人たちも参画できるような取り組みをどんどん進めていって、他人事ではなくて、自分のことだというふうに思われるような取り組みも必要ではないかと思いました。藤枝委員長 ありがとうございます。何年前でしたか、子育てというのを区役所で立ち上げた。あのときは子育てという言葉、だれも知らないんですよ。もちろん子育てサロンという言葉もなかったし、子育て支援からスタートしたんですけども、今考えると、随分メジャーになりましたね。子育てという言葉も日本全国どこでも通じますから。

村山さん、お願いいたします。

村山委員 公募委員の村山です。私はNPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントの理事として、コミュニティづくりを考えるというところで申し述べたいと思います。

再開発地区のマンション住民は、今、約3500世帯というふうにこの2年間で急増しました。そんな中で、今年の8月から、エリアマネジメント連絡会議というのをNPO法人で立ち上げまして、各マンションの代表の方から出ていただきまして、このまちをどうしようかと、コミュニティをどうしようかということを考え、毎月1回の開催ですけれども、

やってきました。そんな中で、防災、防犯というテーマが非常に問題になりまして、これは息長くとらえていかなければいけないというような意見になりまして、これは部会をつくって、各マンションの代表から防犯担当、防災担当というものをつくって、息長く考えていこうということが出ました。新駅が開業すると防犯というところにも、よそからどんな人が入ってくるということがあって、防犯ということは非常に大事になってくるのではないかということがありまして、そういう取り組みも考えました。

それから、民生委員の方5名に、エリアマネジメント連絡会議に出させていただいて、民生委員の活動というものについて説明をしていただきました。若い方が多いんですけども、真剣に考えて、マンションの中に民生委員というものもつくっていかなければいけないというような考えを持っていただきまして、そういう取り組みをしてまいりました。

それから、3月13日の新駅開業ということでは、マンションの人たちに参加を呼びかけまして、実行委員会をつくって、新駅開業のイベントには、再開発のマンション住民として何を出そうかというような話をしまして、3つのことをやろうと。その1つが、川崎工業高校の協力で、ミニ南武線を走らせました。これには400名ぐらいの子どもの参加がありまして、楽しんでいただいたと。それから、電車みこしをつくりまして、これは芳賀委員に技術を出してつくっていただいて、電車みこしを再開発のマンションの中で、午前、午後の2回出して、100名からの子どもの参加ということで、非常に盛り上がりました。

そういうことで、マンションの人たちは、仕事で忙しい人が多いんですけども、30代、40代が住民の70%から80%を占めるということで、今、松本委員から、パパママパークこすぎというものを月2回やっているということですが、こちらの参加が非常に多いですね。最初、佐野委員にこのパパママパークこすぎを立ち上げていただいて、それを松本委員が引き継いでいただいて、現在やっていただいているんですが、佐野委員がやっていた時代の人たちは皆幼稚園とかに進んでしまい、今、松本委員のもとでやっている参加者はゼロ歳から2歳児、全く新しい人なんですね。またまた新しい人がふえていて。それからまた2番目の子が生まれたりということで、そういう人も参加ということなんですね。

きょう、タウンニュースに、小学校の人員の増加というのが出ておりましたけれども、まさにこれから小さいお子さんが公立の小学校、中学校、高校へと進んでいきますね。これは間違いなく皆さん公立の学校に進んでいくということになりますので、小学校の教室の増加とかは必ず起こってくると思います。

また、非常に優秀な人が住んでいるというところで、会議を開いても話すことはきちっとしてありますし、そういう優秀な子どもさんが小学校、中学校へ進んでこられるということで、当然学力の向上というものも期待できるのではないかというふうに思っております。私どものNPO法人について、マンションの人たちからは、このNPO法人があってよかったと、個々のマンションでは管理組合ができて、理事ができて、会議は進められる

けれども、マンション同士の交流というのは、このNPO法人がなかったらできなかったというようなことで、現在、そういう意見で感謝されております。

それから、エリアマネジメント会費の問題も、積極的にそれは納めて、NPO法人をぜひ盛り上げて、私たちのやるまちづくりと一緒にやっていきたいと思いますというような意見を聞いております。

藤枝委員長 ありがとうございます。だんだん価値が皆さんにわかってきてもらってよかったですね。電車というのは人気あるんですよ。この間、うちの地元の学校で、川工さんをお願いしてやってみたんですよ。そのときは大人の方も乗せたら、すごい人気でした。まず自分で運転しまして、これはおもしろいなと思いました。

じゃ、矢野さん、どうぞ。

矢野委員 中原地区の工場協会を代表して来ております矢野でございます。区民会議というものがいかなるものなのかということがわからずに出てきていたんですが、確かに最初の自転車の取り組みなどは大変すばらしいものがありました。もう既に三、四前から近隣工事が始まっていたので、小杉の駅前を含めて、まあ乱雑もいいところの置き方になっておったのが、直近見てみますと、非常に整然としておるといえるか、芳賀さんのお力なのかなというふうに変化を感じております。自転車のほうはそういうことで、新しい小杉駅の駐輪場もすごい立派なのができるまで、最初、何ができたのかなと思ったんですけども、駐輪場だと聞いて、これはやっぱりこの会議の取り組みの中からできたのかなというふうにも感じておりました。

ただ、この小杉駅が13日に開業しまして約1週間なんですけど、私どもの会社が小杉前の真ん前のあの広い通りを直進したほうの場所にあるものですから、直近の1週間の感じ方なんですけど、人の流れが明らかに変わってきましたね。私ども、近隣のところもそうなんですけど、確かに自転車に乗って新小杉駅のほうへ行かれる方、それから、今、409号線、旧府中県道ですか、拡張工事しているものですから、昔の小杉駅ですと、私どものほうの道路は通らないで、別のほうを歩いていったはずなんですけど、直近では真っすぐに行ける道を来るといって、歩道も広がっているものですから、朝晩の流れが変わってきたのか。ちょっと見てみますと、心配なのは、今、マンション業者も考えまして、縦に走っている道路の間を行き来できるようなどころも、我々、敷地内ということではなくて、行動的に通れるようにしてある場所もあるんですけど、そうなりますと、またそういうところへの違法駐輪といいますか、まだ余り厳しくない、新住民さんばかりのところですから、余り苦情も言えないようなところでも、歩道も広いものですから、置いても邪魔にならないという、そういうことが出るのかなというのと、あとは走る上での歩道のほうですね、今度逆に広がって、今すいているものですから、えらいスピードで走るということもありまして、ちょっと危険といえるか、危なさも感じております。

それと、もう1つは、あそこら辺に駐輪場は確保できたんですけど、自動車のコインパー

クが今あるんですが、あれ、工事事業者用に仮設でつくっているところでした、本当のマンション事業が終わっちゃったら、多分なくなるんじゃないかと、村山さん、ご存じだと思いますけれども、駐車場がないんですね。ご存じのように、今度の新横須賀線は成田も行きますし、東北方面まで行けるということになりますと、当然のことながら、あそこへ乗りつけて、そのまま成田へ車で乗りつける人もおろうかと思えますし、一番変わったなと思えますのは、駅前の広い通り、府中県道に抜けるほうの南側のほうなんですけど、夕方になりますと個人タクシーがずらっと並んでいるんですよ。テリトリーの問題か何かあるのかもしれませんが、全部個人タクシーです。中には、ワゴン用のタクシー、大型ですね、勘繰れば、成田から大きなスーツケースを持って入ってきて乗れるタクシーも待っているのかなという、そんな感じもしております。これからもまだどんどん開発というか、できますので、新たな場所での新たな取り組みというのが、今後の課題じゃないですけども、必要かなという感じがしております。

人の流れが変わるということが、簡単に言いますと、平間の駅のほうへ出ていた方が、新小杉駅に来て、そのまま東京のほうへ行くということが大分出てきたのかなと。私どもの会社でも、早速五、六人、定期代の変更申請が出てきたぐらいですので、時間的にも早くなつたし、金額も高くないということだったものですから。安くなっているのかな。本当は流れといいますか、人間だけではなくて、車、自転車、みんな変わってくるような気がいたしております。

それと、もう1つ、コミュニティのほうなんですけど、前にも申し上げたかと思うんですけども、私ども工場協会としても何か目標がなければということで、協会の会館を建てようというのを2年前にしまして、253社、今、会員があるんですが、約60%の賛同を得まして、年々の積み立てということも含めて、一気に払ってもよろしいんですけども、資金積み立てを行っております。数千万円とは行きませんが、ある額が集まっております。これを何とかあと七、八年後には建設に向かっていきたいなと、協会員のためのコミュニティとはいいまして、皆さん、会社、工場ですので、日中昼間などはほとんど使うあれはない。事務局は入りますけれども、場所をあいておるということで、ここに地域コミュニティの場を見つけるということで、16番まで載っていましたが、ここに17番目に名前を連ねられればなというふうに思っておりますので、でき得れば、安い土地といえますか、競売物件を探したりやっているんですけども、ぜひ行政のほうでの補助とか支援があればというふうに願っております。ぜひよろしく願いいたしたいと思えます。藤枝委員長 ありがとうございます。たった1週間で人の流れが変わるんですから、これ、1年、2年たったらどうなっているんでしょうね。信号がついた途端にあそこでガッチャンコがありましたね。これから駐車場の問題、真剣に考えないと、どうしようもなくなるかもしれませんね。

じゃ、横川さん、どうぞ。

横川委員 委員の方たちがほとんどお話が出尽くしたような感じで、聞いていても大変密度の高い素晴らしいご意見ばかりで、終わりに行けば行くほど、しゃべることなんか何もないわねと、2人で何にも話すのやめましょうと行って、皆さんもお疲れのようでございますし。それに、何と申しまして、ここでいろいろあれしていても、私たちの会を支えてくださっている区役所の方たちのこれが違うんですのよ。他の地区と比べると。ほかの方たちと交流するとよくわかるんですけども、今回もこのような立派なものをつくって、先ほど藤嶋会長さんがおっしゃってございましたけれども、こういうふういきちっとしたものができているというのは、まことに手前みそで言うのはあれなんですけれども、中原だけなんでございますの。ほかは交流したときに、こういう紙をぺらぺら書いてあって、見せていただくと、悪口ばかり書いてあるような状態だね。私たちもちょっと驚いたことがあるんです。

それから比べますと、この間、皆さんおいでにならなくて大変残念だったんですけども、各地区の発表を聞きますと、各地区が中原をまねようということで、大変勉強した努力の跡が見られるような場面がたくさんございました。特に若者が出てほしいというところで、ほかで、高津区かどこかでお話ししていましたが、若い方がお出になっても、時間帯ができないということと、若い方がここにお出になっても、それを地域に持って行って連絡するという行動に移せないということ。でも、お年や何かを聞くと、お若い方がたくさん入っていてくださっているというのが、中原の大変いい現状で。私と眞智子さんと、市長さんがお言葉を添えて褒めてくれたから、私たちは余計なことをして質問はしないで、じっとおとなしくしていきましょうということで、私たちはほとんど質問をしない立場のほうに回っていたんですけども、市長も非常に高く評価してくれました。

そして、きょう、いろいろなコミュニティのことも出ましたけれども、各町会の会館を使って、皆さんそれなりに回ってみますと、やっておりますけれども、初めは集まってきても、話の種がなくなっちゃうんですって。だから、ああいうところのリーダーというのは、それなりの話術も巧みで、物知りでなければ、お年寄りを飽きさせないで2時間ぐらいお茶飲みばかりして、おせんべい、お菓子を食べているというんじゃないかと、来てよかったなというお土産を持たせてあげるような話題を持っている方がリーダーになっていただければ、ああいうのも広がっていくんじゃないかなと思います。

それから、子育ての話が出ましたけれども、乳飲み子は親に逆らうことがないからいいんですけども、その後の小学校、中学校、そういうところの子育てが非常に今難しいんでございます。親たちと言っては申しわけないけど、学校がやってくれて当たり前。そして、学校といたしましては、それ以上踏み込んではいけない。自分のお母さんのことを母親と言わないで「あの女、あの女」なんて言っている中学生も結構多いんでございますね。そういう子育てとか、内藤先生なんかは中学生を見ていらっしゃるからわかるんですけど、そういう点をご両親たちが非常に苦労しているところなんです。そういうところに

地域で若者を育てていきたい。まちの中に、祭りとか行事には中高生を参加させてほしいという、そういう形をつくっていただければいいんじゃないかと思います。

たまたまこの間、平和館で、中学生、高校生の体験談の発表がございましたら、小学校3年のお子さんが平和について発表して、図解して、図を書いたときに私は、いやあ、3年生にしては大したものだ。それをどういうふうに締めたかといったら、おもちゃのない時代の人たちが日本を支えて、きょうの国をつくってくれたと。おもちゃや食べ物がいっぱいある僕たちは、もっといろいろなことを考えて、まちや国のために頑張っていきたいなど僕は思いましたと、そういう締めくくりをして、上丸子小学校の坊っちゃんだったんですけれども、いやあ、なかなかうまいこと言うなど。高校生は高校生なりに、また中学生は卒業を控えて、これからのことについて、まちにできるだけ参加したいと。その中で、父親の役割というのが出ていまして、ここにもございますよね。父親の地域のデビュー。前、ここで取り上げてやりましたから、そのときに私は行政に申し入れたんです。土日を開放してあげてくださいと。ぎっしりと仕事を父親に持ち込まないで、土日は法律で決まっている休暇はできるだけお家に返して、父親が子どもと接するようにして、不良化を防止してほしいということを書いて申し入れたことがこの地域ではあったと思うんです。

それから、もう1つは、ミュージアムの周りも大変整備されて、すばらしい公園みたいになりました。どうぞご家族連れで行ってください。中原は医療が大変すぐれていて、救急車で断られたことがほとんどないというんです。ところが、痴呆症を扱う科がほとんどないんですって。これだけあって。痴呆症というのは、素人ではわからないほど、40代、若年の痴呆症が大変多くて、40代ぐらいから会社でも仕事の失敗が目立ってくると、それは痴呆症の初期なんだそうです。それを早く食いとめて復帰させるには、専門のお医者さんが必要だと。今、聖マリアンナだけが痴呆症の特別の科があるんです。中原のこの地区は病気になるほど仕事は押しつけられていないとは思いうんですけれども、やはりできるだけ自分を大事に勤務してほしいなという話がこの間出ていました。

それから、保育所のことでもちょっとかかわったんですけれども、保育所も非常に足りないんですね。そして、民間に頼んでおきますと、泣くと、見えないところでぶったりつねったりして、帰ってくるとおしりにあざがあったり何かすると、子育てなんかもやはりそういうところで目をつけて、できるだけ保育所をふやしてほしいという、さっき小中高の学校をふやすと同じことだと思うんです。

それから、コミュニティの場所を、私も自分の家の1カ所と思ったんですけど、市役所や区役所が考えているのに、素人が余り出しやばったことはしないほうがいいなと思いついて、そういうことは町会長さんたちと相談していきたいなと思っております。

私、いつぞや、井田病院を、どんなふうになっているかと思って訪ねてみました。そうしたら、夜は幽霊が出そうなほどおっかなくて、人がいないんですよ。これだけの場所

で、これだけの病院を、あんな暗くて人も来なくてね。もったいないな、あれはどうなっているのかなと思って。井田病院というのは中原地区じゃないの。びっくりいたしました。あそこを何とか改革して、少しと思っておりました。ほかのところでも、日本庭園なんかでも、ヒルが落ちるほど汚くなっているところは、私はすぐ市長さんに書いて送りました。そしたら、1日あいた次に館長さんが呼ばれて、あの日本庭園はどうなっていると言われて、びっくりしたと。ですから、黙っていてもやっぱり行政でもわからないと思うんです。中原はそれなりに隅々まで大変行き届いたあれをしていますので、皆さんからの不満というのは聞いたことがないですし、お子さんたちの不良化というものもないです。音楽のまちにふさわしく、実にプラスバンドはほとんどの学校が金賞をとっています。全国のコングレにも出場していますのでね。

私は今までの区民会議の運び方、それから、進め方、議長さんの姿勢、それから、行政とのつながり、すべて7つの地区のトップだと思っています。このような形で皆さんのご意見を進めていけば、もっとこのまちがよりよくなっていくのではないかと思います。自分も一緒に勉強させていただきました。ありがとうございました。

藤枝委員長 ありがとうございます。つい最近ですけれども、うちの社協で、痴呆症の講演会をお願いしたんです。全部思い当たることばかりでしたね。本当に痛切に感じました。

吉房さん、長い間お待たせいたしました。やっと順番が来ました。

吉房委員 2時間ぐらいたちまして、一番最後で。私のネタを結構とっちゃった。

私は今まで皆さんのを聞いていて、すべて私の言うことが入っちゃってしまっていて、言うことは全くありません。1923年、今から86年前の関東大震災がありまして、きのうですか、地域振興課のサトウさんをお願いしまして、日本で地震があったのは、記録があったのは何というのだったんだろうと。現在でね。つい最近、福島で震度5の地震があった。あれが一番最後かなと思って。一番最初は明治5年に地震があったと。それ以上前、安政時代もあったんですが、実際、記録に出てきたのが明治5年ですね。これからの次期のテーマにつきましては、今、我々は地震ぼけしっちゃっているんですよ。86年もありませんからね。この辺のこともこの次の区民会議のテーマにでも入れまして、広い面で、安全安心のまちづくりということをやっていますけれども、それも入るんですが、そんなことで1つまた安全安心まちづくりのことで、またテーマに何か皆さんのお力をいただいて、載せて、そういうまちにしていきたいと思っております。

もう1つは、コミュニティのことを言いたいんですが、1つ、コミュニティをずっと皆さんのを聞いていて、また今2期目に入りまして、コミュニティをやったんですが、1点か2点忘れていたのは、コミュニティなんて数え切れないほどあるんですね。その中で一番目立つのは、今、ちょっと横川さんが言ったんですが、保育園、また託児所、これは子どもさんがふえて、申し込んでもすぐ入れない、そういう時代なんですね。これは私立

の保育園、託児所、この方たちの話を聞きますと、私の家の前に、看護師さんが何人か子どもさんを車に乗せて通っていくんですよ。公園の砂場に行くんです。砂場へ行って、そこで、砂遊びを子どもさんがしている。その看護師さんたちの言う言葉に関しては、子どもさんの面倒を見るのがあの人たちの商売ですが、子どもさんと看護師さんの会話きりないと。それは、これ、だめよ、あれ、だめよという注意ばかりしていて、安全面で見ると。そういうようなこときりなくて、ほかの話はないというようなことを聞いたんです。

そういうことで、それじゃ、看護師さんと子どもと今の老人クラブの人たちにそこに行ってもらって、お年寄りの知恵を入れてもらったらどうかねと話をしたんですよ。そうしたら、それはいい考えですが、私たちの一存じゃいけないというから、それはそうだったんですが、この間、老人クラブの会長に聞きましたら、そういうことであれば協力しましょうと。これは私の町会の老人クラブの話なんです、何人か砂場へ行って一緒に遊んであげて、看護師さんたちの少しでも手助けになればどうかなといったことは話したんですね。それで、砂場は今汚い。衛生上よくない。いろいろなことを言っているんですが、あれはモラル、マナーが悪い。あそこで小便しているばかりいるんですよ。猫のふんだとか、犬のふんだとか、いろいろなものがあるんですが、あれをきれいにして、また新しい砂を入れてくれと言えば、すぐに入れてくるんです。そんなことを繰り返しやっているじゃだめだから、何か汚れない方法はないものかといって、じゃ、ふたしちゃったらいいじゃないかというような人もいます。じゃ、ふたをあけたり何かする人はどうしようかというような、そういうことまで考えたんですが、それはいいとして、そういうコミュニティという場所が拠点じゃなくて、青空のところでもできる。やはり雨が降った日はだめなんです、暖かい日だと、そういうところでコミュニティをやればいいんじゃないのという、それは私の言っていることは1つの例なんです、これから世代を背負っていく、小さな子どもさんを大事にしてやるには、やはり看護師さんたちだけでは少し手が足りないということは聞きましたので、できれば老人クラブと一緒に協力してやっていきたいなど、そういうふうに考えています。これは小杉2丁目町内会のやすらぎ会というところの会長さんをお願いしまして、これからやっていきたいと思っております。

あとは、3点、4点、私、考えてきたんですが、きょうは終わります。これ以上ありません。

藤枝委員長 ありがとうございます。時間がなくて申しわけないと思っております。コミュニティの拠点が青空の下でというのはすばらしいですね。それと、保育士さんとの会話、これをもっとふやせば。

はっきり申し上げまして、予定時間を50分超過しております。それで、両副委員長にも1分ずつご意見を伺います。

鈴木副委員長 私は、自然と環境ということで、とどろき水辺の楽校の代表としてここに参加しておりますが、ただいま吉房委員がおっしゃったように、私の場合は、コミュニテ

イも、中原の魅力ということも、この中原で数少ない水と緑の環境のいい場所ということで、多摩川、等々力緑地、それから、多摩川から流れ出ている二ヶ領用水ということで、これから二ヶ領用水400年を迎えまして、重点的に、中原にも実はビル風ばかりじゃないんだよ、自然の風も吹くところもたくさんあるんです。形のない、屋根のない、コミュニティの場として、多摩川と二ヶ領用水、自然を発信していきたいなというふうに皆さんのお話を伺ってつくづく思いました。それに向けて頑張っていきたいと思っております。今までありがとうございました。

竹井副委員長 1期、8回目にもなりますと、皆さんの発言が内容がだんだんと濃くなったなというのを感じました。私は中原まちづくり推進委員会のほうから出ておまして、先ほど紹介がありましたけれども、こういう形で、いつもA4裏表の白黒のもので町内会を出しておりますけれども、今回はカラーで少しだけ印刷させていただきました。

この中でも紹介していますように、区民会議の内容と、連携というか、そういったことも一緒にやらさせていただいておりますので、区民会議とまちづくり推進委員会との関係というの、いろいろ考えながらやってきたつもりですけれども、今後も支え合いながら、連携しながら、やっていけたらいいなと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

あと、1期、2期と振り返ってみると、1期目は、みんなで話すことで、課題なんかを情報共有することが区民会議で多分できるんだというのが実感されたのかなと私は思っています。2期目、今期は、区民会議という器を使って、どんなふうにしたら課題を解決できるんだということを何点か実際の成果も上がっているわけですから、ある意味、それを確認できたのが2期目かなと思っております。3期目はどうするかというと、先日の14日の区民会議交流会の中でも発言がありましたけれども、例えばハードの問題なんかは区民会議では扱いにくいねみたいな話がありました。確かに中原区の区民会議でも扱いにくい課題とか、ちょっとどうかなというか、扱いにくいテーマがありましたけれども、そういったものもやはり扱うことで、より区民会議の意味が生まれてくるのかなと思っておりますので、こんなテーマはだめよじゃなくて、どんなテーマでも3期目も扱っていくことが大切かなというふうに感じております。

藤枝委員長 本当に竹井さんの言うように、発言の内容が、中身が濃くなってきたんですが、きょうは特にその最たるものじゃないかなと思っております。

これで皆さんの意見交換を終わらせていただきまして、これらの意見は、これからの区民会議を運営していく上での参考にしていきたいなと思っております。

報告書については、後ほど、私と3人で、区長のほうにお届け、提出させていただきたいと思っております。

(2) 市民報告会について

藤枝委員長 続きます、2番目の話題で、市民報告会についてです。

2月17日に開催しました運営部会で実施概要案を取りまとめました。その内容について鈴木副委員長から説明いただきたいと思います。

鈴木副委員長 資料2をごらんください。2月17日に、市民報告会について運営部会で検討させていただきました。これは案ですので、皆様のご意見を伺った上で実施に運びたいと思っております。

今、皆様の意見、随分たくさん出たんですけれども、もっと言い足りないことがたくさんあると思うんですね。それを実は区民の皆さんに発信していただきたいと思っております。自分の言葉で、自分の思いで、お見えになる区民の皆さんにぜひ伝えていただきたいと思っております。先日の区民会議の交流会でも、各区に20人ずつ区民会議の委員がいるはずで、7区来たら140人のはずなんですけど、ちょっと少なくて残念でした。今度は我々は20万以上の区民の皆さんに、この20人で今まで2年間取り組んだことを発信していきたいので、必ず皆さんの役割分担を決めさせていただきたいと。どなたが欠席しても困ると。それから、ご自分の部会にそれぞれ分かれておりますので、どんな区民の方から、だれが、どの委員の方が質問されても自分の言葉でちゃんと答えるというような会にしていきたいと思っております。

よその区ではフォーラムというふうにしておりますが、中原は市民報告会ということで、日程としては5月23日（日曜日）午後2時から午後4時まで、この場所で行います。役割分担ですが、藤枝委員長、鈴木が司会をしまして、竹井副委員長が区民会議の制度について、これは自治基本条例に基づいておりますが、その説明をしていただきます。グループにつきましては、3つのグループに皆様全員が入っていると思いますので、この書類に書いてあるとおり、放置自転車のグループ、コミュニティのグループ、まちの魅力発信のグループというふうにグループごとに分かれて、スペースも3つつくりまします。そのスペースで皆さんまず報告会をしてから、そのスペースに皆さんで分かれて、おいでになった皆さんといろいろな交流します。多分今のお話、1人大体10分ぐらいずつかかっておりますが、何十分しゃべってくださっても、2時間ありますので、大丈夫ですので、ぜひやっていただきたい。それから、区民の皆さんが、ちょっとのどがかわいたり、交流ができるように、お茶だとか、飲み物をブースに用意するという形を考えておりまして、裏のほうに会場のイメージ図が書いてありますけれども、こんな感じで、イメージを3つつくってやっていければいいかなというふうに思っております。

パネルにつきましては、運営部会でまた内容を精査させていただきますので、任せていただければいいと思いますが、何か皆さんの中で、ただこの報告会だけで、交流会だけでつまらないんじゃないかと、例えば仮に間に短い音楽でも入れたらどうかとか、腹話術、ちょっとそれは違うかな——何か入れたらどうかというような、リラックスできるような、そういう案がございましたら、事務局のほうにお寄せくだされば、5月23日ですの

で、それもまだ検討できると思います。この会場ですので、できることは知れていると思います。太鼓だのドラムだというのはちょっとうるさいから、やめたほうがいいかなと思いますけれども、案がありましたら寄せてください。

今後のスケジュールにつきましては、きょう、取り組み方法を皆さんにお話しして、ご意見があれば今伺うと。なければ事務局のほうに後ほど提案していただくと。それから、4月中にもう1回運営部会でさらに検討しまして、5月に広報する。今回はできるだけたくさんの人に来てもらいたい。できれば、村山さんのところのNPO法人の新しい住民を初め、皆様のグループに所属している団体にもアピールしてもらって、たくさんの人に来てもらいたいというふうに考えておりますので、広報に関しては、マスコミもそうですけども、皆さんの口コミが実は一番大事だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上、提案を申し上げました。

4 その他

(1) 区民会議交流会について

藤枝委員長 続いて、次第の第4番、その他のところで、区民会議交流会について、これは資料3番をごらんいただけますか。ちょっと大き目の資料ですが。これは去る3月14日（日曜日）に市民館で開催されました区民会議交流会についての報告をさせていただきました。

当日は中原区から、私と鈴木副委員長、横川協働推進事業検討部会長が出席しました。また、竹井副委員長、富岡委員、藤嶋委員、松本委員、山川委員にも会場に同席していただきました。7区から20名の区民会議委員が出席して行われまして、また、参与の方が6名出席されました。市長、総合企画局長、各区の区長、企画課長が出席し、その他傍聴者で40名程度でした。

当日は資料3の次第にありますように、各区の取り組み状況の説明を行いまして、その後で3つのテーマについて意見交換を行いました。

会場では次のようなやりとりがありました。

まず、各区の取り組み状況の報告では、地域のつながりや世代間のつながりなど、コミュニティを課題としている区や、まちの魅力や宝物の発見、発信を課題としている区、環境やエコロジーを課題としている区が多くありました。

次第の4番の意見交換のところでは、初めに、地域課題の把握方法については、出前フォーラムなどのアンケート配布、ホームページや目安箱の利用、各委員の出身団体からの課題を収集することなどが挙げられました。

次に、区民会議提言の具体的な実現について、これが一番問題なんですが、各委員の出身団体のネットワークを生かす。担い手となる関係者がかかるモデル事業を行う。担い手

をイメージして調査、審議するなどが挙げられました。

次に、第3期の区民会議に向けてなどの自由意見では、毎年、今回のような情報交換会を開催することが合意されました。また、区民会議委員には年配者が多いので、若い世代の声を反映すると、先ほども話がありましたが、こういう工夫が必要だろうという意見が出ております。

また、市長からのコメントは、課題はたくさんあるので、分類、整理していく必要があるのではないか。また、区民会議がコーディネーター機能を発揮して課題を解決する方法、協働推進事業で取り組む課題を解決する方法など、さまざまな解決手法があると話がありました。

最後にまとめたキャッチフレーズとして、区民会議はまちの課題のホームドクター、取り組み実行は区民みんなの底力、市民協働で課題解決が発表されました。

先ほどもちょっと話に出ていたように、市長からも言われていましたけれども、区民会議というのは、中原区が最初スタートしました。というのは、僕が町連をやっていたときの区長が今教育長をやっている木場田さんですが、木場田さんが本庁にいるときにいろいろ構想を練って、ここに区長に来られて、それで、そのときにここにいる皆さんなんかと一緒に立ち上げたのが、試行、試しの区民会議でした。あれからもう5年たっています。そのような中原区としての自負もありますので、何としてもこれから中原区としても区民会議はほかの区に負けないすばらしい区民会議で行きたいなと思っています。

区民会議交流会の報告は以上です。

あとは事務局の連絡などはありませんでしょうか。

事務局 それでは、事務局から連絡事項ということで、第2期区民会議、本会議、きょうが最後ということになります。先ほど鈴木副委員長のほうからお話がありましたように、5月23日に市民報告会を実施してまいりますので、運営部会の委員の皆様初め、各委員の皆様、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

また、委員の任期といたしましては、6月末まで皆さんございますので、引き続きご協力のほどよろしくお願ひいたします。

また、第3期に向けたこととございますけれども、4月1日の市政だよりのほうで、第3期の区民会議委員、公募を始めさせていただきますので、あわせてご報告させていただきます。

事務局からは以上でございます。

5 閉会

藤枝委員長 以上で本日のすべての議事は終了いたしました。皆様にご協力いただきまして、円滑な議事を進めることができましたこと、副委員長ともども深く御礼申し上げます。これで第4回中原区区民会議を閉会といたします。ありがとうございました。(拍

手)

午後 5 時 2 4 分 閉 会